

山田なおこ 副委員長

それでは、増田委員、質問項目をお知らせください。

増田裕一 委員

まず小学校における英語活動について、それとネットいじめについて、時間があれば区が管理するインフラについて、それと浜田山駅について。

まず、小学校における英語活動についてお尋ねしたいと思います。

関連する平成21年度予算額と積算根拠をお示しください。

済美教育センター統括指導主事

予算額につきましては2,200万円を予定しております。

積算根拠につきましては、日本人講師が6,614時間、そして外国人講師が342日派遣の予定でございます。

増田裕一 委員

では、その目的と概要についてお尋ねします。

済美教育センター統括指導主事

小学校における英語活動の目的につきましては、外国語を通じて言語や文化についての理解を深めるということ、それから外国語の音声や基本的な表現になれ親しませながらコミュニケーションの素地を養うこと、特に杉並区のほうではコミュニケーション能力、そして国際理解教育の推進を大きな内容としております。

増田裕一 委員

今の答弁にもあったんですが、平成8年7月、第15期中央教育審議会、いわゆる中教審の答申によりますと、国際化に対応する教育を進める上での留意点といたしまして、次の3点を挙げております。

まず、先ほどおっしゃってありました広い視野を持って異文化を理解するということで、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ること。2つ目といたしましては、国際理解のためにも、日本人として、また個人としての自己の確立を図るということ。3つ目は、国際社会において、相手の立場を尊重しつつ自分の考えや意思を表現できる基礎的な力を育成するという観点から、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図ることというふうに答申がなされております。

特に、先ほど答弁にはなかったんですけども、2の自己の確立というものが大変優先すべきことだというふうに思います。自分の国というもの、そしてまた自分の地域だとか家族だとか、そういうものの中で自己というものは確立されていくということなんですけれども、英語活動に際して、この点についてどのように確保していくのでしょうか。

済美教育センター統括指導主事

さきの目的の中でも示しましたが、今委員のご指摘になったことは大変大切だと思っております。積極的に外国の人とコミュニケーションを図ることで外国の文化を知ること、改めて日本人であるということを自覚できるというふうに考えております。また、それは自立にもつながると考えております。また、他の人と積極的にコミュニケーションを図るということでも自己が確立をされていくというふうに考えております。

増田裕一 委員

私自身、英語活動について決して否定しているわけではないんですね。異文化とのコミュニケーションというか、異文化を知るということの中で、先ほどおっしゃったような効果もあるというふうに思いますが、ぜひとも自己の確立という点については重々留意していただければと思います。

具体的に、英語活動についてはどのような授業内容となるのでしょうか。

済美教育センター統括指導主事

英語に触れながらさまざまなことを学んでいく、音に触れながらさまざまなことを学んでいく。特に今行われている学校の中では、歌、ゲーム、絵本、ピクチャーカード等を利用して、英語を具体的に体感させる活動を行っている。あるいは英語の歌による体操や英語の絵本の読み聞かせを行っている学校もございます。また、買い物や食事、道案内などの場面を想定したロールプレイのような活動をしている学校もあります。高学年におきましては、英語ノートを活用しましてスキットなども行っているというふうに、こちらのほうでつかんでおります。

増田裕一 委員

授業形態として、担任だけの指導というのと、また担任と外国語指導助手、いわゆるALT、日本人英語教師などとの組み合わせでチームティーチングで実施するというふうに伺っておりますけれども、どの程度の頻度でどのような体制で英語活動を実施していくのか。

済美教育センター統括指導主事

基本的には担任が中心となり、チームティーチングを次年度は行うという予定になっております。外国人講師につきましては、各学校を6日程度、大規模な学校になるとその2倍ほどということで、36時間から72時間ほど配置する予定でございます。日本人講師につきましては、導入の初年度ということで、なるべくすべての授業につけていきたいというふうに考えております。

増田裕一 委員

それぞれの学校の特色として、いろいろと程度の違いが生じるのは仕方がないと思うんですけれども、また、英語活動の趣旨に照らして、先ほど異文化コミュニケーションということがありましたけれども、明らかに中学校英語の指導方法と違うわけなんですね。で、担任の方とALTとの間でどのように課題というものを共有するのでしょうか。

済美教育センター統括指導主事

小学校の教諭は中学校の英語の教諭とは違いますが、外国人講師の方と、例えば英語で話すことはできません。そういう中ですので、担任とALT、外国人講師の関係につきましては、極めて親密な関係で行わなくてはならない関係上、大切にしていかななくてはならないと思っています。現在、委託という形を考えておりますので、委託業者がコーディネーターに入りまして、担任とそしてALTの間をつないでいく役割をしていきたいと思っています。また済美教育センターとしましても、その間に入り、その関係をつないでいけたらなというふうに考えております。

増田裕一 委員

委託業者の方が間に入って担任の方とコーディネートするという認識でよろしいんですか。

済美教育センター統括指導主事

すべての授業におきまして、1時間1時間のリアルなやりとりはできないというふうに考えております。導入以前にしっかりとした打ち合わせをしていくことが大切だと考えており

ます。

増田裕一 委員

ALTの絶対数が不足しているというふうにも伺っておりますけれども、本区ではどのように確保していくのでしょうか。

済美教育センター統括指導主事

ALTの確保につきましては、大変課題になっていると思います。本区におきましては、早い時期から業者委託をすることにより、その人数を確保するということとなります。またもう1点としまして、2年目ということですので、今現在行っているALTが活動していくということになります。

増田裕一 委員

ALTは、ネイティブスピーカーとしてばかりではなくて、それぞれの出身国の文化を伝えてくれる人、異文化コミュニケーションといえますから、そういうふうにとらえております。ALTの方を交えたチームティーチングの時間を月1回程度まで増やすべきというふうに考えますけれども、区の見解と今後の方向性についてお尋ねします。

済美教育センター統括指導主事

ご指摘のように、小学校の英語活動では、外国人講師の役割は、単に英語に親しませるというだけではなく、国際性、出身国の文化等を伝える大切な役割を持っているというふうに考えております。現在、およそ1校当たり年間36時間ということですので、5、6年生につきましては、月に1回ほどできるかということになります。ただ、それ以外の低学年からの有効性も示されているところですので、本来であれば低学年もなるべく多くの機会に触れさせてあげたいと思っております。本年度の活用状況を踏まえまして、今後の配置時数等については研究を深めてまいりたいと思っております。

増田裕一 委員

わかりました。米百俵の精神というふうに言われておりますけれども、長岡藩の大参事小林虎三郎は、教育に投資するというようなことを言っておりましたので、将来の子どもたちのためにも投資をしていただきたいなと思います。

では続いて、ネットいじめについてお尋ねしたいと思います。

先日一般質問させていただきました。その際、ネットいじめへの対応として、学校支援本部やPTA組織等と連携し、ネットパトロールの取り組みについても検討するという答弁をいただきましたけれども、基本的に、実名でプロバイダーに削除依頼すると大変なことになります。管理人自体が信用できない場合もありますし、削除依頼をした方が学校裏サイトで誹謗中傷を書き込まれたという事例もあります。実際のところ、昨年、横浜市の市立中学校で、学校裏サイトで被害を受けた生徒から相談を受けた教諭が該当サイトの削除依頼をした後、同サイトで中傷されるという被害に遭った事実が明るになりました。こうした危険性について区は把握しているのでしょうか。

済美教育センター統括指導主事

横浜でありました子どもの裏サイトでの誹謗中傷に対する教員の削除依頼により二次災害が起きたという大変不幸な事案である、そして悲しむべき事案であるというふうを考えております。この事案から、ネット社会は、私たちが想像する以上に危険をはらんでいるんだなという実感を持っております。

増田裕一 委員

これは何を意味しているかということ、素人では太刀打ちできないということなんですよ。ある民間団体では、学校裏サイトの見つけ方や嫌がらせを目的とした成りすましメールの

受信拒否の方法などを先生たちに指導して資格を認定するという講座を開講している民間団体もありますし、また、ネットパトロールの専門的なノウハウを有してサービスとして提供している民間企業も存在します。こうした民間の助力を得ることも考えられるかと思うんです。また江東区教育委員会では、来年度から、4月からですけれども、区立の全22中学校について、ネットの監視業務を委託するというふうになっております。こうした動向について区の見解をお尋ねします。

済美教育センター統括指導主事

他自治体におきましてネットパトロール等を実施し始めたということについては、こちらのほうで情報として確認しております。

私ども、不幸な事件は実例ではございますけれども、一義的には、学校が子どもからの相談に応じましてこれに対応していかなくてはならないというふうに思っております。ただし、より高い専門性、より高い危険度がネット上には存在している、そのためには民間の方のお知恵をかりながらネットパトロールを行い、そしてその削除の仕方についても今後研究していく必要があるというふうに考えております。

増田裕一 委員

実際のところ、ネット環境というのは我々大人たちにとっては見えにくい環境なんですね、先日一般質問でもお話ししましたけれども、ぜひ対応のほうを強く要望したいと思いません。

では、区が管理するインフラについてお尋ねしたいと思います。

まず、橋梁の補強改良について、関連する平成21年度の予算額及び概要をお尋ねします。

建設課長

橋梁の補強改良に関連いたします21年度予算でございますけれども、額は3,560万余を見込んでございます。概要でございますけれども、松浜橋の耐震補強実施設計費、東京都の河川改修に伴います橋のかけかえ工事の建設負担金及び設計調査費、新たな橋梁維持管理計画の策定費でございます。

増田裕一 委員

区内において区が管理する道路橋はどの程度あるのでしょうか。

建設課長

区が管理する道路橋でございますけれども、118橋ございます。

増田裕一 委員

そのうち耐震改修が進んでいるもの、実施状況というものはいかがでしょうか。

建設課長

道路橋の耐震改修の実施状況でございますけれども、区では、平成13年に定めました橋梁整備計画に基づきまして、早期に耐震補強が必要な24橋について、これまで計画的に改修いたしました。19年度までに23橋の改修が完了しているところでございます。また、残りの松浜橋につきましては、来年度実施設計、22年度に改修工事の予定であります。

増田裕一 委員

橋というのはやはりライフラインになりますので、ぜひとも耐震改修を鋭意進めていただきたいと思います。
質問を終わります。